



窓から届く  
たっぷりの日差し

# 光と暮らす。

北欧の住まいに見つけた、  
心地よい光

北欧の家で印象的なのは、春の野のような明るさだ。  
木に包まれた温もりある室内では、  
クロスやカーテンに生き生きと草花が咲き誇り、  
いくつもの窓が外の自然の息づかいを映し出す。  
そこには、季節を通じて自然とつながりながら  
暮らしたいという彼らの強い思いがある。  
なぜなら、北欧の冬は太陽がほとんど姿を見せなくなる。  
辺りは薄らと明るくなったかと思うと、  
あっという間に暗くなってしまふ。  
人々は太陽と緑に焦がれ、  
だからこそ、家の中を明るく設えるのだ。  
彼らにとって窓辺は、  
夏の日差しを取り入れる大切な場所。  
けれど冬は、そこから入り込もうとする  
谷放ない冷氣から身を守らなければならない。  
夏の光と、冬の暖かさ。  
その両方を手に入れるべく進化してきたのが、  
北欧の窓であり家だった。  
陽だまりのように光に満ちた家は、  
人々の切実な思いによって叶えられている。

The SWEDENHOUSE 180

3

The  
SWEDEN  
HOUSE

THE PERFORMANCE FOR OUR PLANET

2018 SPRING  
No.  
180

CONTENTS

2  
[ Special ]  
光と暮らす。

8  
[ Technology ]  
スウェディちゃんの  
なぜ？なに？どうして？  
教えてムース先生！

12  
[ Owner's Story ]  
だから、この家が好き。  
That's all, we Like.

22  
[ Life Style ]  
The moment of mjuk !

24  
[ Culture ]  
私の小宇宙 Sweden

25  
[ Life Style ]  
グリーンと暮らせば  
Owner Gardener's Life

26  
[ SWEDEN HOUSE CIRCLE ]  
Good Neighbors

企画・発行：スウェーデンハウス(株)  
発行人：岡田 正人  
編集人：大竹 愛子  
プロデュース：(株) DGコミュニケーションズ  
制作：(株) 東北新社

表紙写真：Patrik Svedberg/imagebank.sweden.se



# ブルーモーメントの静謐

せいひつ

日が沈むと訪れる、青く美しい薄明の時間。  
北極圏に近い北欧では日本以上に長く、  
夏は数時間に及ぶ。

それは「ブルーモーメント」と呼ばれている。  
ゆっくりと夜へと移ろっていくのに合わせ、  
小さなランプ、窓辺のキャンドル、  
フロアスタンド…といった具合に、  
部屋の中に一つ、また一つと  
明かりをともしていく。  
太陽の光を愛おしむように。  
辺りがすっかり闇に包まれた時、  
部屋の中には仄かな明るさと暗がり、  
まるで月明かりの森の中のように共存している。  
その穏やかな光と陰の中に人々は憩う。  
大切な者どうしが寄り添い合って、  
静謐な時間と心地よい空間を分かち合うのだ。



光と暮らす。







# 光と暮らす。

## 一人ひとりに 寄り添う明かり

光を住まいの中に上手に取り入れながら暮らす北欧の人々。そこには、豊かな暮らしのヒントがありました。良質な光は、住まいの快適さを広げ、住む人に健やかさと心のゆとりを与えてくれます。心地よい光を、もっと暮らしに取り入れてみませんか。高い断熱性能を備えた家が、理想の光を実現します。

〔 駒沢モデルハウス 〕

デンマークで愛されてきた照明ブランド「レ・クリント」とコラボレートした上質な明かり。北欧モダニズムの巨匠「アルヴァ・アアルト」の建築デザインに着想を得た、自然素材をふんだんに取り入れた大開口の吹き抜け。新しい表情のスウェーデンハウスです。北欧の明かりと空間を、ぜひ体験してください。

所在地：駒沢公園ハウジングギャラリーステージ3

<https://www.swedenhouse.co.jp/modelhouse/tokyo/komazawa/>



空から見た夜の街は、それぞれに違った色をしているという。北欧の街は、温かなオレンジ色。夜を照らしているのは、家々の窓からこぼれる穏やかで柔らかな明かりだ。彼らは家の中を、オフィスのように明るく。隅々まで照らそうとはしない。テーブルを囲んでの一家団らん、ソファでの語らい、読書や手仕事といった一人の時間…、それぞれに、必要なだけのほど良い明かりをとるのが北欧流。人に寄り添った優しい光が、温もりある街の色をつくっている。